

災害復興医療人類学研究所

所長 辻内琢也（人間科学学術院 教授）

研究活動概要

・定例研究会議の実施

研究所研究員・招聘研究員、および各研究室所属学部生・大学院生による研究報告とディスカッションを行った。報告者と報告内容は下記の通りである。

2022年4月26日：辻内琢也（所長）・岩垣穂大（招聘研究員）・平田修三（招聘研究員）・金智慧（研究員）・五井野龍了（大学院生）「震災支援ネットワーク埼玉 SSN/WIMA 原発避難者調査報告（第2報）」

2022年5月24日：平田修三（招聘研究員）「分断と対立を乗り越えるために—当時小学生だった若者達との対話から—」

2022年6月28日：森松明希子（招聘研究員）「避難する権利、被ばくからの自由」

2022年7月26日：堀川直子（招聘研究員）「日常の苦境、模索する希望—『強制避難』单身女性たちの暮らし」

2022年8月23日：辻内琢也（所長）「分断と対立の根底にある問題群—苦難と希望の人類学へ向けて」

2022年9月27日：プレシポジウム（明治学院大学教授/トム・ギル、コルゲート大学准教授/アレクサンドル・スクリャール、フランス国立科学研究センター教授/セシル・プリス）

2022年11月22日：五十嵐彩夏（桂川泰典研究室修士）「フクシマの子どもたちへの家族に関する質的研究」

2022年12月27日：遠藤凌佑（辻内研究室学生）「福島原発事故後の山形県における避難者行動および避難者支援策」、高村柚奈（辻内研究室学生）「茨城県における東日本大震災および福島原発事故の対応と報道の課題—低認知被災地と茨城県」

2023年1月24日：越沼愛美（辻内研究室学生）「福島県喜多方市における東日本大震災から現在も続く問題や被害に関する研究」、原田光汰（辻内研究室学生）「復興五輪による福島県産物への風評被害払拭の効果—福島県産の桃への影響」

2023年2月20日：猪股正（招聘研究員）・辻内琢也（所長）「2022年アンケート調査結果をもとにした復興庁等行政への要望書／記者会見報告内容の検討」

2023年2月28日：長澤涼人（一橋大学社会学研究科地球社会研究専攻・宮地尚子研究室修士）「原発避難者の沈黙からの解放—原発体験の思想化プロセスの考察—」

2023年3月：辻内琢也（所長）「2022年アンケート調査結果をもとにした復興庁・厚生労働省等への要望書の解説」

・研究成果を書籍として出版

辻内琢也／トム・ギル（編著）『福島原発事故被災者 苦難と希望の人類学—分断と対立を乗り越えるために』（明石書店）2022年10月発行

…事故から11年。人間が引き起こした災害は戦後最大の「国内避難民」を生み、人々の生活に深い分断と苦悩をもたらし続けている。圧倒的暴力を前に我々は希望を見出すことができるのか。国内外の人類学者らが当事者とともに、隠蔽された社会構造を読み解く。

・書評の掲載

2022年10月26日：島蘭進（東京大学名誉教授・上智大学グリーンケア研究所）

「原発災害が生み出した分断の深みと、それを越えていく歩みを描く」 じんぶん堂

➡ <https://book.asahi.com/jinbun/article/14748349?fbclid=IwAR0auD8ZLxtFpsbWec7mVIU5QdXKg544psR5LmUmEucd8yQee1GnZKySMky>

2023年3月18日：木村周平（筑波大学人文社会系准教授）

「その声が波音にかき消されないために」 書評新聞

・復興庁・厚生労働省に要望書を提出 ➡ <https://saitamasogo.jp/archives/90387>

「引き続き原発避難者の苦難を直視した継続的かつ実効的支援を求める要望書」を提出（2023年3月7日：復興庁にて）

・記者会見の実施（2023年3月8日：厚生労働省会見室にて）



特に有意義と考える活動、成果等

・出版記念国際シンポジウム復興の人間科学 2022 の開催

『福島原発事故被災者 苦難と希望の人類学—分断と対立を乗り越えるために—“Anthropology of Tribulation and Hope from FUKUSHIMA”』

主催：早稲田大学災害復興医療人類学研究所(WIMA), 科研費基盤研究(B)：原発事故被災者の移住・帰還・避難継続における新たな居住福祉に関する人間科学的研究

共催：MITATE lab. Post-Fukushima Studies (フランス国立科学研究センター見立てラボ) (<https://mitatelab.cnrs.fr/>), 早稲田大学人間総合研究センター (<https://www.waseda.jp/fhum/archs/news/2022/09/30/2053/>)

場所：早稲田大学国際会議場 (Zoom 同時開催)

日時：10月9日：3階・第2会議室

10月10日：1階・井深記念ホール

…米国よりコルゲート大学教養部客員准教授 (Visiting Assistant Professor, University Studies Department, Colgate University) アレクサンドル・スクリャール (Aleksandr SKLYAR) 氏を招聘した。

…二日間の会場参加者は 105 名、ZOOM 参加者は 254 名 (うち海外からの参加 12 名)。

…シンポジウムの動画を以下のサイトにて公開。

1) 第 1~4 講演 (辻内琢也、トム・ギル、木村あや、日高友郎)

<https://www.youtube.com/watch?v=CT0jSPUT7LM>

2) 第 5~6 講演 (アレクサンドル・スクリャール、堀川直子)

<https://www.youtube.com/watch?v=P0139pG7hsI>

3) 第 7~8 講演 (レシケ綾香、マリ-ヴァイツプト)、1 日目の総評 (ジャーナリスト・日野行介)

<https://www.youtube.com/watch?v=uugcBvDFFGo&t=43s>

4) 第 9~10 講演 (セシル・プリス、平田修三)

<https://www.youtube.com/watch?v=mgsqKm2bdGg>

5) パネルディスカッション(A)「分断と対立を乗り越えるためのアイデア・プラン・希望」

<https://www.youtube.com/watch?v=jvkVyrGh8vU>

6) 基調講演 (弁護士・井戸謙一)「小児甲状腺がん裁判から考える原発事故被災の現在」、パネルディスカッション(B)「井戸先生の講演を受けての質疑応答」、2 日目の総評 (東京大学名誉教授・島園進)

<https://www.youtube.com/watch?v=dUhCKu37HTE>

※Click here to watch the video of the lecture in English.

➔ <https://wima.jp/?p=1366>

(日本語版)

(英語版)

その他の活動、成果等

・2023年3月24日付朝日新聞(朝刊)「生活面」、朝日新聞デジタル 2023年3月9日 18時30分に研究成果が紹介された。

『原発事故、避難者の4割がPTSDの疑い 市民団体など調査』

…東京電力福島第一原発事故で福島県外に避難した人の約4割が心的外傷後ストレス障害(PTSD)

の可能性があることが、市民団体と早稲田大の調査でわかった。震災から12年となるなか、避難先で孤立する状況も浮かび上がり、被災者のもとへ出向く「アウトリーチ」といった支援を求める声がある。

